

国語 第3学年 豆太の気持ちの変化や性格を場面の移り変わりと結び付けて想像し、考えたことを伝え合おう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「モチモチの木（第3学年）」の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、ペアやグループの組み方。

二、既習のこと。第2学年までと第3学年でこれまでに読んだ物語と、「場面」「登場人物」「気持ち」をどこまで学習してきたか。「性格」を言葉として学習したことがあるか。

三、この学級の子どもの実態。読むのが苦手な子、音読を嫌がる子、書くのが苦手な子、発言が偏る、などの様子。

四、この単元に使える時間数と、研究授業にする時間（どの場面の時間か）。

五、使える道具。一人一台の端末があるか、大型画面があるか、紙だけか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言、評価規準の文末（「～している」「～しようとしている」）は変えない。

教科書の本文や台詞は引用しない。場面と登場人物の呼び方だけを使い、台詞を入れる所は「先生が教科書から書き入れる」と書く。

時間数は私が答えた数に合わせ、単元の指導計画の第1次から第3次までの割り振りとの欄を書く。削った活動がどれかを一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、活動の形（一人・ペア・グループ・全体）と使う物を書き直す。音読の形も人数に合わせる。

指導上の留意点にある手当ては、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喻や決まり文句を使わない。

出力は、学習指導案と同じ見出しの順で全文を出してください。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 「豆太の気持ちの変化や性格を場面の移り変わりと結び付けて想像し、考えたことを伝え合おう」

教材名 「モチモチの木（斎藤隆介）」

2 単元の目標

様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにし、文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読する（〔知識及び技能〕(1)オ・ク）。登場人物の行動や気持ちを叙述を基に捉え、気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる（C(1)イ・エ）。読んで考えたことを伝え合って一人一人の感じ方に違いがあることに気付く（C(1)カ）。また、言葉がもつよさに気付く、幅広く読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使っていると同時に、語彙を豊かにしている。（(1)オ）

〔知識・技能〕②文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（(1)ク）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えてい

る。(C(1)イ)

〔思考・判断・表現〕②「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)

〔思考・判断・表現〕③「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①進んで、登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本教材は、夜は一人で外に出られないほどこわがりの豆太が、じさまが夜中に苦しんだ晩に、一人で医者様を呼びに走る物語である。語り手が豆太を評しながら語る口調で書かれているので、語り手の言葉と豆太の行動を分けて捉える学習ができる。昼の木と夜の木、灯がついた晩の木という情景の描き分けがあり、学習指導要領第3学年及び第4学年のC(1)エ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」のうち、第3学年から新しく入る「性格」と「情景」の両方を扱える。低学年のC(1)エは「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」で、第3学年からは「気持ちの変化や性格、情景」と「場面の移り変わりと結び付けて」が加わる。語り口調の文章なので、声に出して読むと場面の様子や豆太の気持ちが思い浮かびやすく、(1)クの音読の学習とも結び付く。

(2) 児童について(学級の実態を書く)

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、音読を毎時間入れ、語り口調の文章を声に出して場面の様子を思い浮かべさせる((1)ク)。次に、気持ちは必ず様子や行動を表す語句から考えさせる((1)オ・C(1)イ)。挿絵ではなく言葉から考えさせる。そして、「勇気がある子になった」と一言でまとめず、怖さと助けた気持ちの両方があることを叙述で確かめる。単元の初めから終わりまで「豆太の表」(横に場面、縦に「行動」「気持ち」「語り手の言葉」「性格の候補」の4行)を同じ形で掲示し、場面ごとに書き足していく。台詞や叙述の引用は、先生が使う教科書から書き入れる。

5 指導と評価の計画(全12時間)

第1次 第1～2時：○範読を聞き、小見出しの区切りごとに「豆太は何をしたか」を一文で書く。○語り手が豆太をどう言っているかの言葉に印を付ける。○意味を知らない語句や昔の言い方を辞書で調べ、語句カード(様子・行動・気持ち・性格)に書く。○初発の感想(豆太について思ったこと、不思議に思ったこと)を読み合い、単元の問い「豆太は変わったといえるか」を決める。評価：知①(語句カード) 知②(音読の観察) 態①(観察)

第2次 第3時：○夜の豆太の場面(一人でせっちんに行けず、じさまを起こす)を音読し、様子や行動の叙述に線を引いて、「豆太の表」に書く。ペアや全体で根拠を言い合う。評価：思①(豆太の表) 知②(音読の観察)

第2次 第4時：○昼の豆太の場面(木に向かって強がる)を読み、豆太の表に書く。○昼の木と夜の木の見え方を比べ、「木の見え方の表」(昼・夜・灯がついた晩の3列)に書く。評価：思①(豆太の表)

第2次 第5時：○祭りの話を聞く場面を読み、豆太の行動と気持ちを豆太の表に書く。評価：思①(豆太の表)

第2次 第6時(本時)：○豆太が医者様を呼びに走る場面を読み、様子や行動を表す語句からその時の気持ちを想像し、夜に一人で外へ出られなかった前の場面と結び付けて、気持ちの変化を自分の言葉で書く。評価：思②(ノート)

第2次 第7時：○木に灯がついたのを見る場面を読み、木の見え方の表に灯がついた晩の木を書き足して、情景と気持ちを結び付ける。評価：思②(ノート)

第2次 第8時：○元気になったじさまの言葉を聞く場面を読み、豆太の性格をどう捉え直すかを考える。評価：思①(豆太の表)

第3次 第9～12時：○単元の問いへの考えを「考え→根拠の叙述(場面と行動)→前の場面との結び付け→初発の感想からの変化」の順で書く。○グループで読み合い、同じ所と違う所に付箋を貼って全体で共有する。

○学習を振り返る。学校図書館で斎藤隆介の他の作品を読む並行読書を紹介する ((3)オ)。 評価：思③ (文章・付箋) 態① (文章の見直し・振り返り)

6 本時の指導 (6/12)

(1) 本時の目標

夜道を走る豆太の様子や行動を表す語句から、その時の気持ちを具体的に想像し、夜に一人で外へ出られなかった前の場面と結び付けて、気持ちの変化を自分の言葉で書ける。(C(1)エ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 前の場面までの「豆太の表」で、夜の豆太（一人でせっちんに行けず、じさまを起こす）と昼の豆太（木に向かって強がる）を確かめる。

2 じさまが夜中に苦しむ所まで、先生の範読を聞く。

○「このあと豆太はどうしたでしょう」

【めあて】夜がこわい豆太が、なぜ、どんな気持ちで走ったのかを考えよう。

予想される児童の反応：・走った。

・医者様を呼びに行った。

指導上の留意点：・前の場面までの豆太の表を黒板に貼っておく。

・「走った」「医者様を呼びに行った」を確かめてから、本時の問いを板書する。

【展開】

学習活動：3 走る場面を一人で音読し、続けてペアで一文ずつ交代して音読する。

4 豆太が走っている様子や行動が分かる言葉に線を引く。

○「豆太が走っている時の様子が分かる言葉はどれですか」

5 線を引いた言葉から、その時の豆太の気持ちを考える。

○「その時の豆太はどんな気持ちだったでしょう。線を引いた言葉から考えよう」

6 前の場面の豆太と比べる。

○「前の場面の豆太（夜に一人で外に出られない）と比べて、何が同じで、何が違いますか」

予想される児童の反応：・泣きながら走った。

・はだしで走った。

・足が痛い、寒い、こわい。

・月や星が出ている。

・こわい、寒い、痛い。

・じさまが死んでしまったら困る。

・早く医者様を連れて帰りたい。

・こわいけど走るしかない。

・こわいのは同じ。

・前と違って、一人で外に出た。

・前と違って、自分のためではなく、じさまのために走った。

指導上の留意点：・気持ちを問う前に、様子や行動を表す語句を必ず確かめる。

・挿絵ではなく言葉から考えさせる。

・音読の時間を削らない。語り口調が独特で、黙読だけでは場面の様子が浮かびにくい子が多い。

・気持ちを一語で言って終える子には「どの言葉から」と返す。

・線が引けない子には先生が一か所だけ示し、先は自分で引かせる。

・怖さだけ、または助けたい気持ちだけを書いた子には、両方を書いた子の発言を板書で上下に並べて見せ、「豆太の気持ちは一つだけか」と問う。

・早く終わった子には「語り手は前の場面で豆太を何と言っていたか。この場面の行動と比べてどう思うか」を考えさせる。

・台詞や叙述の引用は、使う教科書から先生が書き入れる。

【まとめ】

学習活動：7 豆太の気持ちの変化をノートに書く。

(型)「豆太は…な気持ちで走った。それは…という言葉から分かる。前の場面では…だったが、この場面では…」

8 二、三人が読み上げ、同じ所と違う所を確かめる。

9 振り返りを書く。

指導上の留意点：・二つの気持ちが同時にあることを認め、どちらか一つに決めさせない。「勇気」の一語でまとめない。

・振り返りは「今日、言葉から分かった豆太の気持ち」と「友達の考えを聞いて思ったこと」の二つで書かせる。

・次時は木に灯がついたのを見る場面を読むと伝える。

・観察は態①の補助にする。

評価：思② 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(ノート)

(3) 板書計画(縦書き・右から左へ)

右端に日付・題名・本時の問い。その左に前の場面までの豆太の表(夜の豆太・昼の豆太・じさまへの気持ち)。中央に、走る場面の様子や行動の言葉を子どもが見付けた順に右から短冊で貼り、矢印の先に気持ちを二列で書く(右の列に「こわい・寒い・痛い」、左の列に「じさまを助けたい・早く医者様を」)。その左に前の場面との比べ(同じ所・違う所)。左端にまとめの文の型と振り返りの観点二つ。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重